

## 広報ふじみに関するアンケート結果

### 1 アンケート調査の概要

- (1) 対象者 行革市民会議委員 11名
- (2) 実施方法 広報「ふじみ」21年7月号・8月号とともにアンケート用紙を郵送し、郵送にて回収した
- (3) 実施期間 平成21年7月～8月

### 2 調査結果

- (1) 回収結果 7名
- (2) 回収率 63.6%

### 3 意見概要

- (1) 色・デザインに関する事 12件
- (2) 記事のわかりやすさに関する事 7件
- (3) 記事内容の必要性に関する事 5件
- (4) 文字に関する事 4件
- (5) 検討の手法に関する事 4件
- (6) 記事の優先度に関する事 3件
- (7) 掲載内容の新提案に関する事 3件
- (8) 表紙に関する事 2件

## 4 アンケート意見

### (1) 色・デザイン

- ①色はもう少し明るく藤色でよいと思う (7月号)
- ②今回の写真では、色でみせる(判別させる)ものはなかったかと思うが、フォトニュース(公民館まつり、ふるさとまつり、難波田城まつり、たんぼ体験など)とちょっと寄り道の写真は、カラーが良い(7月号)
- ③「行政インフォメーション」「教育委員会だよりと生涯学習」とは、見出しと本文の色を反対にするなど、そのページの性格を表すという工夫(彩の国だよりでは黒1色のページあり)も必要(7月号)
- ④やはりカラー写真の方がよりリアルに情景が伝わる(7月号)
- ⑤ページ内の事業名と連動して見やすいように、インデックスを右欄外部に、ページ内にある事業部署名(簡略名)で、ページ順に上から下へ、青地に白抜き文字で、見開きしやすいようにする(7月号)
- ⑥カラーを1枚取り入れるとすれば、表紙は写真がカラーになり、その裏に、その月の最重要項目をカラー刷りで入れ、市民にアピールすれば広報度が上がる。裏表紙の表・裏を、フォトニュースとすれば、写真の効果度アップ(7月号)
- ⑦特に日常的な係わりのあること、関心のあること、目につきやすい位置取りが必要かと思う。例えば、4P 開庁時間の延長の件、6P 新型インフルエンザの対応について等。また、8P の上段、梨の直売コーナー、難しい情報の中で、ほっとするコーナーだった。写真も生きていると思った(8月号)
- ⑧レイアウトの工夫として、イラスト、余白に工夫ができないか。各部からの元原稿をカットするのは辛いですが、結果は「完成した、読みやすい紙面」を作ることだと思う(8月号)
- ⑨制作費に大きな負担がなければ2Pか4Pをカラー印刷にしたらどうか。費用面を考え、2Pの場合(1,20)、4Pの場合(1,2,19,20)、表紙、フォトニュース、Young21、ちょっと寄り道、などが今以上に効果的になると思う(8月号)
- ⑩いっしょに配布される「市議会だより」がカラーなので、違和感あり。そこで、表紙の1枚のみカラー化し、カラーが似合う「フォトニュース」などにしては(8月号)
- ⑪イラストを取り入れて、文章をやわらかく内容にひきこむようにすると良い(今後について)
- ⑫行政の紙面は固いと思っている人が多いと思う。もう少し軟らかい紙面づくりに期待する(今後について)

### (2) 記事のわかりやすさ

- ①5ページのQアンドAのコーナーはわかりやすい。色も2色の濃淡ですっきりとして見やすい(7月号)
- ②見出しの次の担当部署と電話番号を線で囲って強調し、どこの事業か一目

で分かるように（7月号）

- ③問合せ先が見出し下になっている。見やすくなっているがもう少し大きくしてはどうか。担当者名は可能か（7月号）
- ④文章の簡潔・明瞭化の徹底。説明のくだりが必要なものは別として、「詳しくはお問い合わせください」「ホームページをご覧ください」等類のものは、「いつ、どこで、なにがある」最低限の内容で済み、スペースが空く余地あり。例えば（赤字解消への努力はシビヤーに）最低限、意思疎通が図れればよい（7月号）
- ⑤縦書き、横書き部分の兼ね合いが、うまく半々になっているので、「縦書き部分は右開き、横書き部分は左開き」で読んでも見やすいように編集しては（7月号）
- ⑥ふじみ福祉フォーラム 21 について、「選挙の投票と重なると中止になる」は、もっと目につくような工夫をした方がよい（8月号 P.14）
- ⑦発信する側と受ける側との歩み寄りがいかに大切なことか考えさせられた。詳しく伝えようと内容が細々として、意図が伝わりにくい時もある。範囲があるのでよろしくご検討を（今後について）

### （3）記事内容の必要性

- ①キラリの催しもののページについて、マクベスなど写真が必要なのか、案内内容も長い、キラリの広報とダブっているのでは（7月号 P.19）
- ②なしの直売の記事について、写真を入れるなら、「富士見のおいしい梨の直売がいつからいつまで始まります。詳しくは市ホームページで」が良いのでは（8月号 P.8）
- ③商店街の夏まつりの記事について、上のリード文を省けば、4行空く（8月号 P.8）
- ④「市民伝言板」は多くの行政案内がある中で、別の方法で考えても良いのではないか。例えば NPO や、地域情報誌など活用はどうか（8月号 P.19）
- ⑤マンネリ化したお知らせが多すぎる。市民がもっと興味を持てる題材を工夫し、何か聞きとり方式で（今後について）

### （4）文字

- ①高齢者などにも見やすい様に文字を濃くしてはどうか（7月号）
- ②文字の組み方、枠記事の組み方、見出しなどを統一したらどうか。現在は 2～7P:本文が縦組み、枠組記事は横組み、8～20P:本文も枠組み記事も全部横組み（8月号）
- ③高齢者対応の観点から「本文の文字」を 1 ポイント大きくしたらどうか（8月号）
- ④文字も少し大きくしてほしい（今後について）

## (5) 検討の手法

- ①コストの面から考えるなら、他の市町村の広報紙や、紙の質、予算など、比較対象となるものがある方が、より良い広報紙の作成につながると思う（今後について）
- ②市民意見の反映という点で、「市民意識調査」だけでなく、広報のモニター制度は、常時そして継続したほうが良いと思う（今後について）
- ③今後の改善について、他の自治体広報との対比も必要。近隣自治体、県内、全国からの情報実例の収集、広報のサンプルの収集、内容検討、市民委託等政策手法の事例の収集、広告収入等の情報収集など（今後について）
- ④モニター、調査、資料収集、紙面の検討、取材、製作、配布、費用対効果などすべてについて、市民協働による製作についての真剣、具体的な検討が「カギ」となるような気がする。行財政市民懇談会の結論も是非参考にしていきたい（今後について）

## (6) 記事の優先度

- ①それぞれの課の情報満載の中、記事の順番として高齢者福祉課がトップなのは、私も高齢者として有難い（7月号）
- ②何を一番市民に伝えたいのかメリハリをつけた方が良いと思う。例えば、7月号は〇〇〇（7月号）
- ③全体で20Pのうち、行政インフォメーションが4P、教育委員会関係が6P（教育委員会だより2P、生涯学習案内4P）で、広報としてバランスの検討が必要（7月号）

## (7) 掲載内容の新提案

- ①「くらしのリユース」は、実際の譲った・譲られた件数を載せたら、活用度が分かり参加者が増すのでは（7月号P.22）
- ②地域性も活かした紙面づくりの検討はどうか。例えば最終ページを地域ページに（7月号）
- ③市内も急激に発展され、場所もわからない事もあるので、写真等で市内のすてきな場所や様子等紹介するのはどうか（今後について）

## (8) 表紙

- ①表紙のコンテンツ欄には、「市民としてこれだけは読んで知ってほしい」という、市の気合いの入ったものにしては（7月号）
- ②表紙に目次（内容全体の項目表示）を掲載したらどうか。一般雑誌と違い、広報本来の目的を表現できるのは「表紙」だと思う。表紙の写真、イラストは小さくても「心の和み」の効果は努力次第で工夫できると思う（7月号）